

四 半 期 報 告 書

第 93 期 第 3 四 半 期

〔 自 平成 23 年 10 月 1 日
至 平成 23 年 12 月 31 日 〕

京都市中京区壬生花井町3番地

E 0 0 7 0 3

日 本 写 真 印 刷 株 式 会 社

目 次

	頁
【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第 1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	3
第 2 【事業の状況】	4
1 【事業等のリスク】	4
2 【経営上の重要な契約等】	4
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	4
第 3 【提出会社の状況】	8
1 【株式等の状況】	8
2 【役員の状況】	9
第 4 【経理の状況】	10
1 【四半期連結財務諸表】	11
2 【その他】	21
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	22

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成24年2月14日

【四半期会計期間】 第93期第3四半期(自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日)

【会社名】 日本写真印刷株式会社

【英訳名】 NISSHA PRINTING CO., LTD.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 兼 最高経営責任者 鈴木 順也

【本店の所在の場所】 京都市中京区壬生花井町3番地

【電話番号】 (075)811-8111(大代表)

【事務連絡者氏名】 上席執行役員 最高財務責任者 西原 勇人

【最寄りの連絡場所】 東京都港区芝五丁目33番7号徳栄ビル本館

【電話番号】 (03)6414-7300(代表)

【事務連絡者氏名】 執行役員 東京支社長 成田 健介

【縦覧に供する場所】 日本写真印刷株式会社 東京支社
(東京都港区芝五丁目33番7号徳栄ビル本館)

日本写真印刷株式会社 大阪支社
(大阪府中央区淡路町一丁目7番3号日土地堺筋ビル)

株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

株式会社大阪証券取引所
(大阪府中央区北浜1丁目8番16号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第92期第3四半期 連結累計期間	第93期第3四半期 連結累計期間	第92期
会計期間		自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日	自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日	自 平成22年4月1日 至 平成23年3月31日
売上高	(百万円)	87,210	63,415	114,054
経常損失(△)	(百万円)	△3,361	△6,861	△5,396
四半期(当期)純損失(△)	(百万円)	△1,525	△22,176	△2,464
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	△4,348	△24,673	△5,748
純資産額	(百万円)	81,798	54,756	80,396
総資産額	(百万円)	150,262	110,566	142,942
1株当たり四半期(当期) 純損失(△)	(円)	△35.42	△516.74	△57.25
潜在株式調整後1株当たり 四半期(当期)純利益	(円)	—	—	—
自己資本比率	(%)	54.4	49.5	56.2
営業活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	△3,885	7,308	△722
投資活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	△5,570	△2,941	△6,672
財務活動による キャッシュ・フロー	(百万円)	241	△1,736	△378
現金及び現金同等物の 四半期末(期末)残高	(百万円)	15,715	19,190	17,107

回次		第92期 第3四半期 連結会計期間	第93期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 平成22年10月1日 至 平成22年12月31日	自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日
1株当たり四半期純損失(△)	(円)	△9.84	△59.95

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、1株当たり四半期(当期)純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
4. 第92期第3四半期連結累計期間の四半期包括利益の算定にあたり、「包括利益の表示に関する会計基準」(企業会計基準第25号 平成22年6月30日)を適用し、遡及処理しております。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動は、以下のとおりであります。

(産業資材)

清算終了:ニッサンコリア精密射出(株)

この結果、平成23年12月31日現在では、当社グループは、当社及び関係会社22社により構成されることとなりました。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等は行われていません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績の状況

当第3四半期連結累計期間におけるグローバル経済は、欧米など先進国を中心とした景気減速に加え、中国の成長率鈍化による下振れ懸念もあり、先行き不透明な状況が続きました。また日本経済は、東日本大震災からの復興に伴う緩やかな回復が見られたものの、歴史的な円高の継続やタイの大規模洪水の影響によって、依然として厳しい状況で推移しました。

当社が主力市場としているパソコンや携帯電話などのコンシューマー・エレクトロニクス分野では、製品需要の急激な変動や製品・サービスの低価格化が進行しており、これらの要因が生産効率の悪化と価格引下げ圧力となって、売上高と利益の両面で重大な影響を及ぼしました。

このような事業環境のなかで、当社は「今すぐとるべき対策」と名づけた緊急対策を実行し人件費・全社部門経費の圧縮等による固定費の削減や、あらゆる変動費の削減に注力してきました。しかしながら市場環境がさらに厳しいことから、低成長下でも利益を創出できるコスト体質に変革し、次の成長へ向けて強固な事業基盤を構築するため、平成23年9月より更なる構造改革強化策に着手しております。骨子は以下のとおりであります。

① 損益分岐点売上高の引き下げ

イ 固定費の削減

- ・生産工場・設備の閉鎖・除却などによる減価償却費の削減
- ・役員報酬・管理職給与の追加削減、正社員の希望退職者募集などによる人件費の削減
- ・その他の経費削減

ロ 変動費の削減

② 生産拠点の統廃合

- イ 産業資材事業、デバイス事業の国内生産工場の一部を閉鎖
- ロ 情報コミュニケーション事業の一部設備を除却

③ 円高対応力の強化

- イ 原材料の海外調達を促進

これらの構造改革強化策の実施に伴い、当第3四半期連結累計期間において事業構造改善費用を96億78百万円計上しました。その内訳は固定資産の減損損失が65億28百万円、希望退職者募集に伴う特別加算金・再就職支援プログラム費用等が31億50百万円であります。

なお、上記の施策のうち、人員の削減については正社員を対象とする希望退職者(退職日：平成23年12月31日)の募集について490名の応募者がありました。

また、当期および今後の業績動向を踏まえ、繰延税金資産の回収可能性を検討した結果、繰延税金資産の一部を取り崩しました。

これらの結果、当第3四半期連結累計期間の業績は、売上高は634億15百万円(前年同四半期比27.3%減)、利益面では営業損失は66億65百万円(前年同四半期は32億1百万円の営業損失)、経常損失は68億61百万円(前年同四半期は33億61百万円の経常損失)、四半期純損失は221億76百万円(前年同四半期は15億25百万円の四半期純損失)となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

産業資材

産業資材は、プラスチック製品などの表面を加飾する技術を柱とし、今後は機能性フィルム等に展開していくセグメントであります。プラスチックの成形と同時に転写を行う「Nissha IMD」は、グローバル市場でノートパソコン、携帯電話、自動車(内装)、家電製品などに広く採用されております。

当第3四半期連結累計期間においては、主力である個人用ノートパソコン向けと携帯電話向けの需要が低迷したことなどにより、売上高は293億34百万円(前年同四半期比15.1%減)となり、セグメント損失(営業損失)は1億11百万円(前年同四半期は25億21百万円のセグメント利益(営業利益))となりました。

デバイス

デバイスは、タッチ入力デバイス「Nissha FineTouch」を中心とし、精密で機能性を追求したデバイスを提供していくセグメントであります。グローバル市場で、スマートフォン、携帯ゲーム機などに採用されております。

当第3四半期連結累計期間においては、スマートフォン向け静電容量方式タッチパネルの急激な需要変動と競争激化が続き、また、抵抗膜方式タッチパネルの需要が低調であったことにより、売上高は205億7百万円(前年同四半期比46.1%減)となり、セグメント損失(営業損失)は27億1百万円(前年同四半期は12億1百万円のセグメント損失(営業損失))となりました。

情報コミュニケーション

情報コミュニケーションは、お客さま企業の広告宣伝、販売などに関するコミュニケーション活動全般をサポートするセールスプロモーションや商業印刷、出版印刷のほか、文化財のデジタルアーカイブ製作も手がけております。

当第3四半期連結累計期間においては、主力の商業印刷分野で国内景気の低迷に伴う企業の広告費の削減、インターネットメディア等への移行による印刷物の減少などの影響によって受注競争は激しいものとなり、売上高は134億1百万円(前年同四半期比6.5%減)となり、セグメント損失(営業損失)は67百万円(前年同四半期は2億26百万円のセグメント損失(営業損失))となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期連結会計期間末における総資産は1,105億66百万円となり前連結会計年度末(平成23年3月期末)に比べ323億75百万円減少しました。

流動資産は527億86百万円となり前連結会計年度末に比べ140億40百万円減少しました。主な要因は、受取手形及び売掛金が65億52百万円、商品及び製品等のたな卸資産が53億36百万円減少したこと等によるものであります。

固定資産は577億80百万円となり前連結会計年度末に比べ183億34百万円減少しました。主な要因は、事業構造改善費用として減損損失を計上したこと等により有形固定資産が88億87百万円、その他に含まれる繰延税金資産が回収可能性の見直し等により46億41百万円、時価の変動により投資有価証券が38億74百万円減少したこと等によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における負債は558億9百万円となり前連結会計年度末に比べ67億36百万円減少しました。

流動負債は459億43百万円となり前連結会計年度末に比べ38億31百万円減少しました。主な要因は、その他に含まれる未払金が40億88百万円増加した一方、支払手形及び買掛金が77億10百万円減少したこと等によるものであります。

固定負債は98億66百万円となり前連結会計年度末に比べ29億4百万円減少しました。主な要因は、その他に含まれる繰延税金負債が投資有価証券の時価の変動等により14億2百万円減少したこと等によるものであります。

当第3四半期連結会計期間末における純資産は547億56百万円となり前連結会計年度末に比べ256億39百万円減少しました。主な要因は、当第3四半期連結累計期間における四半期純損失を221億76百万円計上したため利益剰余金が減少したことに加えて、その他有価証券評価差額金が21億82百万円減少したこと等によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況の分析

当第3四半期連結累計期間末における連結ベースの現金及び現金同等物(以下「資金」という)は、前連結会計年度末に比べ、20億83百万円増加し、191億90百万円となりました。

当第3四半期連結累計期間における各キャッシュ・フローの状況とそれらの要因は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動の結果得られた資金は73億8百万円(前年同四半期は38億85百万円の使用)となりました。減少の要因としては、当第3四半期連結累計期間に税金等調整前四半期純損失を175億39百万円計上したこと、仕入債務が74億59百万円減少したこと等がありました。一方増加の要因としては、事業構造改善費用を96億78百万円、減価償却費を64億7百万円、法人税等の還付額を26億36百万円計上したことに加え、売上債権が63億16百万円、たな卸資産が52億67百万円減少したこと等がありました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動の結果使用した資金は29億41百万円(前年同四半期比47.2%減)となりました。これは主に当第3四半期連結累計期間に有形及び無形固定資産の取得として45億91百万円を支出した一方、定期預金の払戻しによる収入を15億78百万円計上したこと等によるものであります。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動の結果使用した資金は17億36百万円(前年同四半期は2億41百万円の獲得)となりました。これは配当金の支払いにより9億63百万円、リース債務の返済により4億80百万円を支出したこと等によるものであります。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当社が主力市場としているパソコンや携帯電話などのコンシューマー・エレクトロニクス分野では、製品需要の急激な変動や、製品・サービスの低価格化が進行しております。これらの要因により受注状況は著しく悪化し、売上高と利益の両面に重大な影響を及ぼしており、今後も非常に厳しい経営環境が続くものと予想されます。

このような厳しい環境下においても利益を創出できるコスト体質に変革し、次の成長へ向けて強固な事業基盤を構築するため、一層踏み込んだ構造改革が不可欠と判断し、90億円規模のコスト削減を掲げた構造改革強化策を実施しております。

(5) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は17億67百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

(6) 生産、受注及び販売の実績

当社が主力市場としているパソコンや携帯電話などのコンシューマー・エレクトロニクス分野では、製品需要の急激な変動や製品・サービスの低価格化が進行しております。これらの要因により、当第3四半期連結累計期間において、産業資材及びデバイスの販売の実績が著しく減少しております。両セグメントの販売実績は、前年同四半期と比べて産業資材が52億22百万円減少(15.1%減)、デバイスが175億56百万円減少(46.1%減)しております。

(7) 主要な設備

新設、休止、大規模改修、除却、売却等について、当第3四半期連結累計期間に著しい変動があった設備は、次のとおりであります。

① 減損

構造改革強化策の実施に伴い、減損損失を計上したことにより固定資産が65億28百万円減少しました。

主要な事業所別の内訳は、ナイテック工業㈱の亀岡工場が32億81百万円、甲賀工場が3億47百万円、ナイテック・プレシジョン㈱の加賀工場が13億17百万円であります。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	180,000,000
計	180,000,000

② 【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成23年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成24年2月14日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	45,029,493	45,029,493	(株)東京証券取引所 (市場第一部) (株)大阪証券取引所 (市場第一部)	権利内容に何ら限定のない 当社における標準となる株式 単元株式数 100株
計	45,029,493	45,029,493	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金 増減額 (百万円)	資本金 残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
平成23年10月1日～ 平成23年12月31日	—	45,029	—	5,684	—	7,115

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成23年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 2,113,500	—	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式(その他)	普通株式 42,857,800	428,578	同上
単元未満株式	普通株式 58,193	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	45,029,493	—	—
総株主の議決権	—	428,578	—

(注) 1. 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式が47株含まれております。

2. 当第3四半期会計期間末日現在の「発行済株式」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日(平成23年9月30日)に基づく株主名簿による記載をしております。

② 【自己株式等】

平成23年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 日本写真印刷株式会社	京都市中京区壬生花井町 3番地	2,113,500	—	2,113,500	4.69
計	—	2,113,500	—	2,113,500	4.69

2 【役員の状況】

前事業年度の有価証券報告書提出日後、当四半期累計期間における役員の異動は、次のとおりであります。

(1) 退任役員

役名	職名	氏名	退任年月日
取締役名誉会長	—	鈴木 正三	平成23年11月12日

(注) 取締役名誉会長鈴木正三は、逝去に伴い退任しております。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号。以下「四半期連結財務諸表規則」という。）に基づいて作成しております。

なお、四半期連結財務諸表規則第5条の2第3項により、四半期連結キャッシュ・フロー計算書を作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任監査法人トーマツにより四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	18,109	19,431
受取手形及び売掛金	25,348	※2 18,796
商品及び製品	6,684	4,221
仕掛品	5,338	3,902
原材料及び貯蔵品	3,208	1,770
繰延税金資産	2,280	2,195
その他	6,078	2,643
貸倒引当金	△220	△175
流動資産合計	66,826	52,786
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	22,359	18,774
機械装置及び運搬具（純額）	16,626	10,303
工具、器具及び備品（純額）	1,501	1,435
土地	7,834	6,458
リース資産（純額）	3,549	3,106
建設仮勘定	1,579	4,485
有形固定資産合計	53,450	44,563
無形固定資産		
のれん	116	73
ソフトウェア	4,212	2,971
ソフトウェア仮勘定	1,105	2,075
その他	130	118
無形固定資産合計	5,565	5,239
投資その他の資産		
投資有価証券	9,678	5,803
その他	8,241	2,602
貸倒引当金	△820	△428
投資その他の資産合計	17,099	7,977
固定資産合計	76,115	57,780
資産合計	142,942	110,566

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	21,894	14,184
短期借入金	20,380	20,094
未払法人税等	191	171
賞与引当金	1,601	592
役員賞与引当金	53	13
事業構造改善引当金	—	59
設備関係支払手形	1,864	694
その他	3,789	10,134
流動負債合計	49,775	45,943
固定負債		
退職給付引当金	6,267	5,801
資産除去債務	30	30
その他	6,472	4,034
固定負債合計	12,770	9,866
負債合計	62,546	55,809
純資産の部		
株主資本		
資本金	5,684	5,684
資本剰余金	7,355	7,355
利益剰余金	67,679	44,537
自己株式	△2,925	△2,925
株主資本合計	77,794	54,652
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	4,409	2,227
為替換算調整勘定	△1,807	△2,122
その他の包括利益累計額合計	2,601	104
純資産合計	80,396	54,756
負債純資産合計	142,942	110,566

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
【四半期連結損益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成22年4月1日 至平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)
売上高	87,210	63,415
売上原価	79,505	61,575
売上総利益	7,704	1,840
販売費及び一般管理費	10,905	8,506
営業損失(△)	△3,201	△6,665
営業外収益		
受取利息	44	45
受取配当金	344	141
固定資産賃貸料	522	—
その他	199	248
営業外収益合計	1,111	435
営業外費用		
支払利息	112	95
投資有価証券評価損	186	19
為替差損	889	480
その他	82	34
営業外費用合計	1,271	630
経常損失(△)	△3,361	△6,861
特別利益		
固定資産売却益	27	10
投資有価証券売却益	1,302	—
貸倒引当金戻入額	31	—
国庫補助金	169	159
特別利益合計	1,530	170
特別損失		
固定資産除売却損	74	804
固定資産圧縮損	159	156
関係会社清算損	—	209
資産除去債務会計基準の適用に伴う影響額	80	—
事業構造改善費用	—	*1 9,678
特別損失合計	314	10,849
税金等調整前四半期純損失(△)	△2,145	△17,539
法人税等	△607	4,636
少数株主損益調整前四半期純損失(△)	△1,537	△22,176
少数株主損失(△)	△11	—
四半期純損失(△)	△1,525	△22,176

【四半期連結包括利益計算書】
【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純損失 (△)	△1,537	△22,176
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△2,339	△2,182
為替換算調整勘定	△470	△314
その他の包括利益合計	△2,810	△2,497
四半期包括利益	△4,348	△24,673
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△4,336	△24,673
少数株主に係る四半期包括利益	△11	—

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純損失 (△)	△2,145	△17,539
減価償却費	7,627	6,407
のれん償却額	40	43
賞与引当金の増減額 (△は減少)	△832	△1,007
役員賞与引当金の増減額 (△は減少)	△19	△40
退職給付引当金の増減額 (△は減少)	49	△466
投資有価証券評価損益 (△は益)	186	19
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△14	△434
受取利息及び受取配当金	△388	△187
支払利息	112	95
為替差損益 (△は益)	131	189
固定資産除売却損益 (△は益)	47	793
投資有価証券売却損益 (△は益)	△1,302	—
関係会社清算損益 (△は益)	—	209
事業構造改善費用	—	9,678
売上債権の増減額 (△は増加)	△4,446	6,316
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△4,149	5,267
仕入債務の増減額 (△は減少)	2,930	△7,459
その他	△859	3,009
小計	△3,032	4,896
利息及び配当金の受取額	389	187
利息の支払額	△121	△95
法人税等の支払額	△1,121	△316
法人税等の還付額	—	2,636
営業活動によるキャッシュ・フロー	△3,885	7,308
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	200	1,578
定期預金の預入による支出	—	△240
有形及び無形固定資産の取得による支出	△8,268	△4,591
有形及び無形固定資産の売却による収入	82	305
投資有価証券の取得による支出	△24	△9
投資有価証券の売却による収入	2,395	0
投資有価証券の償還による収入	32	1
子会社株式の取得による支出	△2	—
貸付けによる支出	△2	△41
貸付金の回収による収入	14	56
投資活動によるキャッシュ・フロー	△5,570	△2,941

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	10,233	△242
長期借入れによる収入	—	75
長期借入金の返済による支出	△41	△125
社債の償還による支出	△7,000	—
リース債務の返済による支出	△414	△480
自己株式の取得及び売却による収支	△609	△0
配当金の支払額	△1,926	△963
財務活動によるキャッシュ・フロー	241	△1,736
現金及び現金同等物に係る換算差額	△543	△547
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△9,758	2,083
現金及び現金同等物の期首残高	25,473	17,107
現金及び現金同等物の四半期末残高	※1 15,715	※1 19,190

【連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
1. 連結の範囲の重要な変更 当社の連結子会社であったニッサコリア精密射出(株)は、平成23年2月18日付で清算手続を結了したため、第1四半期連結会計期間より、連結の範囲から除外しております。

【四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
1. 税金費用の計算 税金費用については、当第3四半期連結累計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益又は税引前当期純損失に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益又は税引前四半期純損失に当該見積実効税率を乗じて計算しております。ただし、見積実効税率を使用できない場合には、法定実効税率を使用しております。

【追加情報】

当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
(会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準等の適用) 第1四半期連結会計期間の期首以後に行われる会計上の変更及び過去の誤謬の訂正より、「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準」(企業会計基準第24号 平成21年12月4日)及び「会計上の変更及び誤謬の訂正に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第24号 平成21年12月4日)を適用しております。

【注記事項】

(四半期連結貸借対照表関係)

前連結会計年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成23年12月31日)
1 受取手形割引高 670百万円	1 受取手形割引高 100百万円
※2 _____	<p>※2 四半期連結会計期間末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。</p> <p>なお、当第3四半期連結会計期間末日が金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が、四半期連結会計期間末残高に含まれております。</p> <p>受取手形 187百万円</p>

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
※1 _____	<p>※1 事業構造改善費用</p> <p>構造改革強化策の実施に伴う固定資産の減損損失(6,528百万円)及び希望退職者募集に伴う特別加算金・再就職支援プログラム費用等(3,150百万円)であります。</p>

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
<p>※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成22年12月31日現在)</p> <p>現金及び預金勘定 16,725百万円</p> <p>預入期間が3か月超の定期預金 <u>△1,009百万円</u></p> <p>現金及び現金同等物 15,715百万円</p>	<p>※1 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係 (平成23年12月31日現在)</p> <p>現金及び預金勘定 19,431百万円</p> <p>預入期間が3か月超の定期預金 <u>△240百万円</u></p> <p>現金及び現金同等物 19,190百万円</p>

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成22年6月25日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	972	22.50	平成22年3月31日	平成22年6月28日
平成22年11月5日 取締役会	普通株式	利益剰余金	965	22.50	平成22年9月30日	平成22年12月3日

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

当第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成23年6月24日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	965	22.50	平成23年3月31日	平成23年6月27日

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の著しい変動

株主資本の金額は、前連結会計年度末日と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	産業資材	電子	情報コミュニ ケーション	その他 (注)1	計		
売上高							
外部顧客への売上高	34,556	38,063	14,338	251	87,210	—	87,210
セグメント間の内部売上高 又は振替高	265	—	—	1,307	1,573	(1,573)	—
計	34,822	38,063	14,338	1,559	88,783	(1,573)	87,210
セグメント利益又は損失(△)	2,521	△1,201	△226	177	1,271	(4,472)	△3,201

(注) 1. 「その他」は不動産事業、人材派遣事業等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△4,472百万円には各報告セグメントに配分していない全社費用等が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第3四半期連結累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：百万円)

	報告セグメント					調整額 (注)2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)3
	産業資材	デバイス	情報コミュニ ケーション	その他 (注)1	計		
売上高							
外部顧客への売上高	29,334	20,507	13,401	171	63,415	—	63,415
セグメント間の内部売上高 又は振替高	19	—	—	785	804	(804)	—
計	29,354	20,507	13,401	956	64,220	(804)	63,415
セグメント利益又は損失(△)	△111	△2,701	△67	203	△2,677	(3,988)	△6,665

(注) 1. 「その他」は不動産事業、人材派遣事業等であります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△3,988百万円には各報告セグメントに配分していない全社費用等が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「産業資材」、「デバイス」及び「情報コミュニケーション」のセグメントにおいて、構造改革強化策の実施に伴う減損損失を計上しており、特別損失の「事業構造改善費用」に含めて表示しております。なお、当該減損損失の計上額は「産業資材」が4,848百万円、「デバイス」が1,626百万円、「情報コミュニケーション」が53百万円であります。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純損失(△)及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 平成22年4月1日 至 平成22年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
(1) 1株当たり四半期純損失(△)	△35円42銭	△516円74銭
(算定上の基礎)		
四半期純損失(△)(百万円)	△1,525	△22,176
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純損失(△)(百万円)	△1,525	△22,176
普通株式の期中平均株式数(千株)	43,076	42,916

(注) 1. 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、また、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成24年2月7日

日本写真印刷株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 佃 弘 一 郎 印

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 三 浦 宏 和 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている日本写真印刷株式会社の平成23年4月1日から平成24年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間(平成23年10月1日から平成23年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(平成23年4月1日から平成23年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、日本写真印刷株式会社及び連結子会社の平成23年12月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。